

令和4年度日本いも類研究会総会・講演会の報告

令和4年度日本いも類研究会総会・講演会は3月16日（木）13：00～17：00にZoom ウェビナーによるオンライン会議で開催しました。

○ 講演会は13：00～16：45に4名の方が講演を行いました。

「ばれいしょ栽培の省力化技術の開発」

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構農業研究本部

十勝農業試験場 研究部 豆類畑作グループ 研究主査 青山 聡氏

「種ばれいしょ栽培におけるソイルコンディショニング」等 機械化新技術体系

東洋農機株式会社 監査役 大橋 敏伸 氏

「青果用かんしょの省力機械移植栽培体系の確立」

徳島県農林水産総合技術支援センター農産園芸研究課 総括研究員 村井 恒治 氏

「かんしょ機械化一貫栽培体系による省力化の実現」

井関農機株式会社 夢ある農業ソリューション推進部 部長 三輪田 克志 氏

オンラインで参加していただいた方は150名をこえ、大盛況でした。

講演はじゃがいも、さつまいもの機械化の発達と現状、そして将来にわたる展望等幅広いものでした。

17：00からは総会を行い、約50名の方が出席されました。

日本いも類研究会小巻会長が座長をつとめました。

事前にメールで送っております、事業報告・事業計画、収支報告・収支計画につき審議を進めていただきました。

第1号議案の令和4年度事業報告・収支報告（案）

第2号議案の令和5年度事業計画・収支計画（案）

第3号議案の令和5年度・6年度の役員（案）

についてはいずれも挙手にて賛成多数をいただき、承認されました。

最後に、退任される田宮幹事、甲斐幹事から退任の挨拶をいただくとともに、新任の田口幹事、小林幹事から今後の抱負を述べていただきました。

令和5年度の総会・講演会は新型コロナ感染症の終息も見えてきたことから、対面とオンラインのハイブリッド会議にすることを幹事の皆様からも提案されており、総会の場でも承認されました。

今後、会場を決定した際には日時等も含めて、会員の方にはお伝えして参ります。

以上

令和4年度事業報告

I 令和4年度事業報告

1. 会員への情報提供

(1) いも類振興情報及びいも類研究会ニュースレターの送付

いも類に関する試験研究の成果や新品種情報、農林統計、農林水産予算の概要等を掲載したいも類振興情報を年4回全会員に配布した。

いも類研究会ニュースについては、会員の利便性向上と事務局作業の合理化・効率化の観点から、冊子での発行を停止し、これまで研究会ニュースに掲載していた予算、白書、統計等の情報はいも類振興情報に統合して掲載し、研究会関係のお知らせは、ニュースレター形式でA4数枚にまとめて同封する形とした。ニュースレターはJRTWebにも掲載した。

(2) ホームページ・メーリングリストの運営

ホームページの更新やメーリングリストの運用、サーバの管理やセキュリティ対策などを、研究会会員であるさつまいもカンパニー株式会社に委託して実施した。

① ホームページの更新等

JRTWebに掲載したジャガイモ品種詳説、ジャガイモ博物館、かんしょ品質評価試験結果、ポテトチップス試食調査結果を更新した。現在の構成は概ね以下のとおりである。

- ◇「じゃがいも情報」：じゃがいも品種詳説、ジャガイモ博物館、ポテトフィールド、じゃがいもに関する国内文献目録 じゃがいも Mini 白書、レシピ、リンク
- ◇「さつまいも情報」：さつまいも品種詳説、サツマイモ資料館長日記、さつまいも Mini 白書、焼き芋小百科、レシピ、リンク
- ◇「評価試験等」：かんしょ品質評価試験、ポテトチップス試食調査、ジャガイモ新品種試験栽培
- ◇「セミナー、イベント」：サツマイモ産業振興セミナー、いも類講演会、国際焼き芋交流フォーラム
- ◇「資料・データ」：おいもQ&A、いも・でん粉に関する資料（農林水産省）等
- ◇「研究会について」：研究会の会則や入会手続き、お問い合わせフォーム等。

② Facebook ページでホームページの更新情報を発信するとともに、会員発案事業（ポテトチップス試食調査、ジャガイモシストセンチュウ類抵抗性品種の普及に関する情報交換会、サツマイモ基腐病の現状と課題に関する情報交換会、）等の告知を行った。

③ じゃがいも品種詳説、さつまいも品種詳説については、種苗法に基づく品種登録を行っている品種を中心に掲載することとし、じゃがいも品種詳説については近年種苗法に登録された品種を掲載した。

④ ホームページやFacebook ページ経由での外部からの質問に対応している。会員外の方からの問合せは年間数10件に及び、適宜、メーリングリストで会員の方々にも照会したほか、サツマイモ事典、ジャガイモ事典等を参考にして回答した。

2. 研究会等の開催及び支援

(1) ジャガイモシストセンチュウ類抵抗性品種の普及に関する情報交換会

ジャガイモシストセンチュウに対する最も効果的な対策は抵抗性品種の作付であるが、青果用や加工用では転換が進んでいないことから、シロシストセンチュウも含めた抵抗性品種の普及に向けて、10月31日（月）にWeb会議（Zoom ウェビナー）形式で情報交換会を開催した。

(2) 第4回サツマイモ基腐病の現状と対応に関する情報交換会の開催

平成30年に国内で初めて発生が確認され、南九州で猛威を振るっていたサツマイモ基腐病は、これまでに北海道までの全国で発生が報告されている。令和4年度には12月20日（月）に第4回の情報交換会をWeb

会議（Zoom ウェビナー）形式で開催し、本年度の発生状況や対策の実施状況と効果等について紹介、意見交換を実施した。

（3）ばれいしょ加工適性研究会及びかんしょ品質評価研究会への協力

（公財）日本特産農作物種苗協会によるばれいしょ加工適性研究会及び（一財）いも類振興会によるかんしょ品質評価研究会における農研機構等の新規育成系統の評価試験の実施及び研究会の開催と報告書取りまとめに協力した。「かんしょ品質評価研究会報告書」についてはJRTWebに掲載した。

（4）農林水産省消費者の部屋「さつまいも、じゃがいもの週」への協力

農林水産省の消費者の部屋特別展示「さつまいも、じゃがいもの週」（令和4年10月24日～28日）の開催に協力し、中日本農業研究センター、九州沖縄農業研究センターからはさつまいもの各種品種、北海道農業研究センター、北海道立北見農業試験場、長崎県農林技術開発センター中山間営農研究室からはじゃがいもの各種品種、会員企業からはさつまいも、じゃがいもの青果、「ポテトサラダ」「ポテトチップ」、「焼酎」、「干しいも」「けんぴ」、「色素」等の提供を得た。

（5）その他

川越市で開催したコエド芋パーク（令和5年2月11日～12日）を後援する等の協力を行った。

3. MiNi 白書作成

じゃがいも及びさつまいもMiNi白書については、研究会ホームページに掲載しているMiNi白書を適時改正することにし、冊子として発行することは取りやめることとした。

4. ジャガイモ新品種試験栽培の実施

ジャガイモ新品種試験栽培については、申込者が極端に減少したこと、新しい品種も含めて園芸資材販売店などでも購入可能となったことなどから実施を見送ることとなった。

5. 会員発案事業

（1）ポテトチップス試食試験調査の実施

本年はポテトチップス用品種として開発された「しんせい」、「ハロームーン」と近年の試食調査で好評であったでん粉原料用品種「パールスターチ」に令和3年度品種公表されたカラー品種の「シャイニールビー（赤色）」と「ノーブルシャドー（紫色）」の5品種で評価を行い、調査結果をホームページに掲載した。

（2）“5感で楽しむ さつまいもワールド”の開催

一般消費者向けにさつまいもを5感（視て、聴いて、触って、味わって、嗅いで）で楽しめる内容をJA東京アグリパークにおいて令和5年1月24日（火）～28日（土）、（一社）さつまいもアンバサダー協会との共催で開催した。研究会会員の商品（焼きいも、干しいも、大学いも、その他さつまいもを使ったお菓子やスイーツ）の販売、さつまいもに関する情報や書籍、品種の展示、ミニイベント（ミニ講座、紙芝居、クイズ大会、食べ比べ）を実施した。

6. 総会の開催

令和4年度の総会は、令和5年3月16日（木）にリモート（Zoom ウェビナー）方式で行う。

7. 会員数の状況

令和4年度会員数は、令和5年2月末現在で個人会員191名、法人会員は47社となっている。

○ 会費納入会員数の推移

年度	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
個人	175	236	268	298	294	218	211	239	230	216	196	180	191
法人	14	23	30	34	42	45	38	35	37	34	31	27	27
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
個人	196	179	205	205	199	205	189	193	191	195	177	183	176
法人	30	34	36	35	35	36	37	38	37	39	40	44	47



8. 他団体との連携強化

一般財団法人いも類振興会と共催でいも類に関する講演会を開催するとともに、会員が運営する一般社団法人さつまいもアンバサダー協会、川越のサツマイモまんが資料館などが行う行事等についてはメーリングリストや研究会ニュースを通じて広く会員に情報を提供した。

9. サツマイモ情報センターの活動

令和4年度会員発案事業で、サツマイモ基腐病情報交換会の開催と、それを手始めとしたサツマイモ情報の発信、関係機関の連携を主目的としたサツマイモ情報センターを設立した。センター長、運営委員(複数)、事務局長の体制とし、運営委員には日本いも類研究会会員の研究/事業関係の方から、活動に積極的に関わっていただけそうな方に声掛けし参画いただいた。キックオフミーティングを令和4年7月4日に開催。サツマイモ基腐病情報交換会、さつまいもワールドの開催を推進した。

サツマイモ情報センター運営体制

役割	氏名	所属・役職
センター長	山田 英次	サツマイモまんが資料館 館長
運営委員	大泉 敬士	三好アグリテック株式会社 営業部部長
運営委員	大谷 基泰	石川県立大学 植物細胞工学研究室 准教授
運営委員	門脇 正行	島根大学生物資源科学部 農林生産学科 准教授
運営委員	金田 富夫	JAなめがたしおさい 専務理事
運営委員	齊藤 浩一	株式会社川小商店 代表取締役社長
運営委員	鈴木 敏夫	農文協プロダクション 代表取締役
運営委員	中澤 健雄	日本いも類研究会 事務局長
運営委員	矢野 哲男	(一財)いも類振興会 理事長
運営委員	吉元 誠	マイ食品開発研究所 代表
事務局長	橋本 亜友樹	さつまいもカンパニー株式会社 代表取締役

10. 日本いも類研究会役員（令和3年度・4年度）

会 長	小 卷 克 巳	元福島県農業総合センター所長 (農林水産省産学連携支援コーディネーター)
副 会 長	岩 井 菊 之	(有)菊水堂 代表取締役社長
幹 事	片 山 健 二	農研機構 北海道農業研究センター寒地畑作研究領域 領域長補佐 兼 畑作物育種グループ長
同	甲 斐 由 美	農研機構 九州沖縄農業研究センター 農業技術コミュニケーター
同	田 宮 誠 司	農研機構 技術支援部 東北技術支援センター 東北業務第1科長
同	坂 本 悠	長崎県農林技術開発センター 畑作営農研究部門 中山間営農研究室 主任研究員
同	林 一 也	東京家政学院大学 教授
同	山 田 英 次	川越いも友の会 事務局長
会計監査	西 郷 伸 二	株式会社ホープ執行役員
顧 問	井 上 浩	前日本いも類研究会会長
同	齊 藤 浩 一	(株)川小商店代表取締役社長
同	田 中 智	元カルビーポテト (株) 参与
同	津久井亜紀夫	元東京家政学院大学教授
事務局長 事務局長補佐	中澤 健雄 橋本 亜友樹	(一財)いも類振興会 需要推進部長 さつまいもカンパニー株式会社代表取締役

注：農研機構は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の略

日本いも類研究会 法人会員（計 47法人）（令和4年12月日現在 会員番号順）

株式会社ホーブ
三栄源エフ・エフ・アイ株式会社
公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会
十勝農業協同組合連合会
日農化学工業株式会社
東洋農機株式会社
カルビーポテト株式会社
三好アグリテック株式会社
ホクレン農業協同組合連合会
ケンコーマヨネーズ株式会社
さつまいも産業振興協同組合
芽室町農業協同組合
大樹町農業協同組合
株式会社松尾青果
士幌町農業協同組合
幕別町農業協同組合
愛知県経済農業協同組合連合会
公益社団法人北海道農産基金協会
株式会社柳川採種研究会
カネコ種苗株式会社
株式会社川小商店
株式会社舟和本店
株式会社幸田商店
カルビー株式会社
有限会社西田農産
株式会社大隅半島農林文化村
株式会社ポテトかいつか
霧島酒造株式会社
なめがたしおさい農業協同組合
さつまいもカンパニー株式会社
株式会社ユーキフーズ
日本種馬鈴薯協会
有限会社内山青果
公益財団法人日本特産農産物協会
白ハト食品工業株式会社
大口酒造株式会社
有限会社アグリプロセス宮崎
茨城中央ほしいも協同組合
特定非営利活動法人うつくしま・ふくしま農産物普及推進協議会
アグロアソシエイト株式会社
カネカ株式会社
株式会社ベルディ
株式会社カワコファーム
エイシン電機株式会社
日本スターチ・糖化工業会
有限会社ジャパンポテト
有限会社南橋商事

令和5年度事業計画

II 令和5年度事業計画

1. 会員への情報提供

(1) いも類振興情報及びいも類研究会ニュースレターの送付

いも類に関する試験研究の成果や新品種情報、農林統計、農林水産予算の概要等を掲載したいも類振興情報及びニュースレター（研究会関係のお知らせ）を年4回全会員に配布する。

(2) ホームページ・メーリングリストの運営

引き続き、ホームページの更新やメーリングリストの運用、サーバの管理やセキュリティ対策などを、研究会会員であるさつまいもカンパニー株式会社に委託して実施する。

じゃがいも品種詳説、さつまいも品種詳説、かんしょ品質評価試験結果、ポテトチップス試食調査結果等を随時更新するとともに、いも類振興情報掲載記事のバックナンバーを JRTWeb から閲覧できるようにして、会員の便宜を図る。外部からの問合せは事務局全体で適切に対応する。

トピックスコーナーには、いも類に関する催し物などを中心に適時掲載していく。

2. いも類に関する研究会等の開催及び支援

ばれいしょ加工適性研究会及びかんしょ品質評価研究会に引き続き協力し、特に加工向け品種の普及に向けて会員への周知等を積極的に行っていく。

ジャガイモやサツマイモに関するタイムリーなテーマについて、勉強会や情報交換会を開催する。

3. 日本いも類研究会総会の開催

令和5年度定期総会については、令和6年3月に対面及びオンライン併用のハイブリッド方式で開催するとともに、(一財)いも類振興会との共催で講演会を開催する。総会、講演会については、リモート（Zoom ウェビナー）で会員に周知する。講演会についてはホームページで広く一般の方への参加を呼び掛ける。

4. 他団体との連携強化

(一財)いも類振興会の行う各種事業に協力するとともに、さつまいも関係では一般社団法人さつまいもアンバサダー協会や川越のサツマイモまんが資料館など会員独自の活動と連携して、より広範ないも類の振興を図る。なお、催し物を開催する場合はオンライン視聴ができるように取り組む。

5. 会員の発案による事業の実施

研究会では会員がそれぞれ研究会に積極的に参加することにより運営の活性化を図るため、会員発案による事業を実施することとする。なお、事業の実施に当たっては以下の条件を満たすこととし、申し出の早い順に採択するものとする。

・基本的にいも類の生産・流通・消費の拡大を目指す内容のものであること。（イベントの案内や会員への資料送付は事務局も協力）

・経費の対象は講演等のための講師旅費、謝金等とし、原則として人件費、旅費及び機械施設整備費は経費の対象としない。

・予算の範囲内での事業規模を基本とする。

・事業実施希望会員は、事業計画及び収支計画を事務局に提出するとともに、事業が終了した場合は遅滞なく事業実施報告（資料であれば印刷部数）及び経費請求書を事務局に提出する。

6. 会員の確保及び会費の徴収

会員の高齢化が進み、ここ数年個人会員が減少傾向にあることから、各種の勉強会やセミナー等を対面で開催することも含めて新たな取り組みについて検討を行うとともに、会員管理については以下の内容で適切に実施する。

- ・会費納入案内は4月に送付することとし、納入期限は7月末日とする。
- ・会費納入案内時には、払込取扱票とともに会員住所変更届を同封し、的確な会員管理に努めるものとする。
- ・令和4年度会費未納会員のうち、令和6年3月末までに会費の納入がない場合は退会希望とみなし、必要な事務処理を行う。

7. 研究者・専門家リストの作成

メディアや個人から寄せられる数多くの質問や相談に適切に対処できるよう、研究会に所属している研究者・専門家の経歴や対応可能な領域を整理する。

8. サツマイモ情報センターの運営

令和4年度に引き続きサツマイモ基腐病情報交換会を開催する予定。また、さつまいもワールドについても会員の協力を募りながら、より充実した内容で開催を企画する。ホームページにおけるサツマイモに関する情報発信（サツマイモ栽培の機械化、スマート化等も含めた栽培情報や加工）を強化し、セミナー（テーマ案：かんしょに関する補助金の事業内容説明、今後の加工向け品種の動向、海外の動向）の開催も進める。

9. 日本いも類研究会役員（令和5年度・6年度）案

会 長	小 卷 克 巳	元福島県農業総合センター所長 (農林水産省産学連携支援コーディネーター)
副 会 長	岩 井 菊 之	(有)菊水堂 代表取締役社長
幹 事	片 山 健 二	農研機構 北海道農業研究センター寒地畑作研究領域 領域長補佐 兼 畑作物育種グループ長
同 (新任)	田 口 和 憲	農研機構中日本農業研究センター温暖地野菜研究領域 栽培管理グループ 上級研究員
同 (新任)	小 林 晃	農研機構九州沖縄農業研究センター暖地畑作物野菜研究領域 カンショ・サトウキビ育種グループ グループ長
同	坂 本 悠	長崎県農林技術開発センター 畑作営農研究部門 中山間営農研究室 主任研究員
同	林 一 也	東京家政学院大学 教授
同	山 田 英 次	川越いも友の会 事務局長
会計監査	西 郷 伸 二	株式会社ホープ執行役員
顧 問	井 上 浩	前日本いも類研究会会長
同	齊 藤 浩 一	(株)川小商店代表取締役社長
同	田 中 智	元カルビーポテト (株) 参与
同	津久井亜紀夫	元東京家政学院大学教授
事務局長 事務務局長補佐	中澤 健雄 橋本 亜友樹	(一財)いも類振興会 需要推進部長 さつまいもカンパニー株式会社代表取締役

注：農研機構は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の略

3 『甘藷先生の置き土産～青木昆陽と千葉のさつまいも』の紹介

今回、千葉市立郷土博物館から「甘藷先生の置き土産～青木昆陽と千葉のさつまいも」が出版されたので、紹介します。

青木昆陽がさつまいもの試作を行ったのは江戸城吹上御苑及び小石川薬園と不動堂村（千葉県山武軍九十九里町）・馬加村（千葉市花見川区幕張町）でした。そのうち現在の千葉県幕張地域はさつまいもの大産地となり、江戸の町に運ばれて、さつまいもは人々の身近な食べ物となりました。その後、この地域ではさつまいもを原料とするでん粉製造業が起こり、千葉県を代表する産業となりました。

こうした青木昆陽と千葉のさつまいものかかわりについて、昨年、千葉市立郷土博物館で展示会が開催されたことを記念して、「甘藷先生の置き土産～青木昆陽と千葉のさつまいも」が出版されました。

価格は1冊700円で、発売元は千葉市立郷土博物館です。

購入方法 千葉市立郷土博物館において販売しています。

詳しいことは市史編さん担当 土屋氏にお尋ねください。

電話：043-222-8231 FAX 043-225-7106

E-mail masato9457@city.chiba.lg.jp